



アクティブ・ラーナー育成を目指すFDer養成の取組

県立広島大学 AP事業推進部会

発表者：馬本 勉（総合教育センター） 川口 博之、伊藤 俊（本部経営企画室）

県立広島大学
Prefectural University of Hiroshima



1. 県立広島大学のAP事業

◆ 県立広島大学の教育的課題

- 「授業の満足度は高いが、授業外学修時間が伸びない」(※学内調査より)
⇒ 学生の主体的学び(の姿勢)を引き出せていない

◆ 平成26年度AP事業 テーマ I (アクティブ・ラーニング) 採択

- 行動型学修・参加型学修を軸とする「県大型アクティブ・ラーニング(GLAL)」を推進
導入の目安：90分授業で20分相当の行動型・参加型学修(学期中の合計300分以上)
- ファカルティ・ディベロッパー(FDer)を養成 [対象:各学科・総合教育センター教員]
AL手法の積極的導入, 組織的授業改善をリード

⇒ **生涯学び続ける自律的な学修者(アクティブ・ラーナー)の育成へ**

2. AL推進と見えてきたもの

◆ 平成28年度AL導入率...増加!!

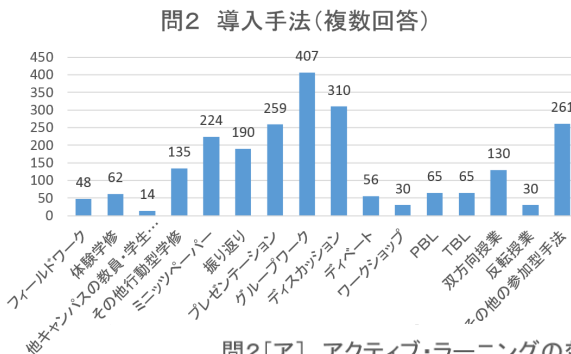
回答科目中:

H27 **72.3%** ⇒ H28 **74.8%**

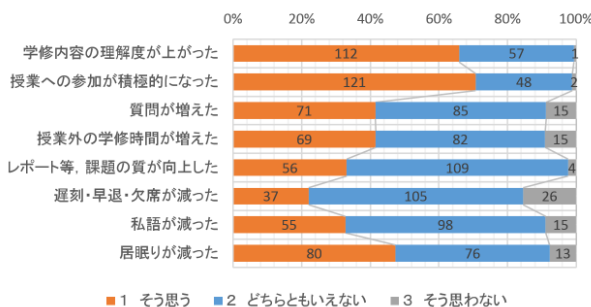
(823科目中, 595科目で導入) (888科目中, 664科目で導入)

◆ グループワーク, ディスカッション, プレゼンテーションを中心に導入が進む

- 導入による効果：
授業への参加度, 理解度の向上
- 導入が困難な理由：
説明時間が減る, クラスサイズが大きすぎる

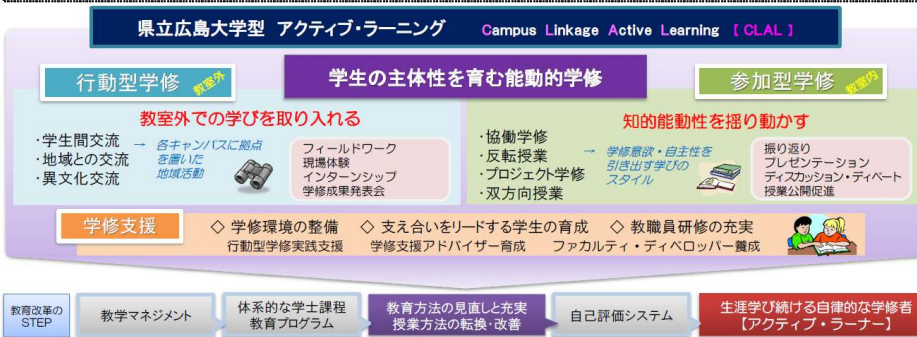


問2[A] アクティブ・ラーニングの効果



大学等名：県立広島大学
テーマ：テーマ I (アクティブ・ラーニング)

取組概要 地域活動を組み込み、主として教室外で行う「行動型学修」と、学修者の知的能動性を揺り動かす深い学びを喚起する「参加型学修」を組み合わせた「能動的学修」を学士課程教育に計画的に導入して教育改革を進める全学的な取組である。これにより、幅広い教養と高度な専門性を備えた人材を育成し、生涯にわたり学び続ける自律的な学修者アクティブ・ラーナーの育成を目指す。



指標	28年度(実績値)	29年度(実績値)	31年度(目標値)
アクティブ・ラーニングを受講する学生の割合*	100%	100%	100%
ファカルティ・ディベロッパー養成	0人	36人	30人
学修アドバイザー育成	0人	41人	55人

* 28年度以降の数値目標はアクティブ・ラーニングを再定義した上で算出される

学長のリーダーシップの下、教育改革に取り組む。本学での学びに対する学生の満足度を高め、卒業生の活躍により地域への波及効果を狙う。

- ・教室外での学びを取り入れ、学修意欲・自主性を引き出す新たな教授法による授業外学修の充実を加速する。
- ・知識を活かせる人材の育成を目指して、真の問題発見力や課題解決力、論理的思考力を育む。
- ・FD・SD活動の充実により、教職員員の意欲を向上させる。目標を共有し、教育の質的改善に全学的・組織的に継続して取り組む。
- ・学生同士が教え合うことで、学びを定着させる。

◆ より効果的なAL推進の必要性

- AL導入・実践 **フェーズ移行** → 質的充実, 点検・改善, 波及
- 「支え合い・学び合い」の仕組みづくりの加速

【課題】 FDerの成長が急務

◎ FDerの成長を促す(H29年度)

- 役割の明確化・分担
- ルーブリックによる自己評価
⇒ 年度内に「実践力」へ
- 授業ピアレビューの促進
⇒ 「授業参観シート」を用いた相互評価
- 実践の積極的な発信
⇒ 波及のための全学FD(ポスターセッション)

3. FDer養成の取組(H29)

時期	会場	平成29年度の取組・研修内容	養成する資質・能力
4月～8月	—	FDer自己評価ルーブリック/Aler自己評価ルーブリック 試案作成【1】	—
6/21	広島C	第1回FDer養成講座「学びの改革を支える学校づくり」 ◆講師: 県立広島大学 榑原恒雄理事	・実態把握する力 ・見通しを持つ力
8/23～25	徳島大学	SPODフォーラム(3名のFDerが参加。本学の取組みをポスター発表するとともに、フォーラムの全日程を通じて他大学の取組みを学んだ。)	・ALの実践力 ・組織的改善力
7月	全C	AP事業「授業ピアレビュー」授業公開&授業参観【2】 ◆31名のFDerが60授業を公開/FDer延べ47人が授業を参観	・授業観察力 ・授業展開力
6/28 6/30 7/4	広島C 庄原C 三原C	第2回FDer養成講座「授業の見方について考える」 ◆参加者: 広島C(14人/18人中) 庄原C(7人/9人中) 三原C(14人/19人中)	・授業観察力 ・授業展開力
9/14	広島C	第3回FDer養成講座「FDer実践報告会(ポスターセッション)」【3】 ◆ポスター発表42件	・ALの実践力 ・組織的改善力
9/21	三原C	第4回FDer養成講座「第1回県立広島大学ティーチング・ポートフォリオ更新WS」 ◆参加者: 12人が参加し、TPを更新	・自己省察力 ・授業改善力
10月	県内	県内高等学校への授業見学 ◆広島県立広島高校(17日, 参加者7名) ◆広島県立三次高校(23日, 参加者3名) ◆広島市立安佐北高校・広島中等教育学校/広島市立舟入高校(24日, 参加者3名)	・授業観察力 ・授業展開力

ファカルティ・ディベロッパー(FDer)

定義	担当授業等においてALを実践し、学科内の他の教員へALに関する指導・助言を行うとともに、本学におけるALの普及・浸透に努める教員。
役割	①組織的教育改善 (カリキュラム改善提言, 高大接続) ②AL実践と普及 (授業ピアレビュー) ③学修成果の把握 (ルーブリック作成) ④学修支援アドバイザー(SA)との協働 (活動サポート, 授業支援活動の促進)
選任方法	○AP事業推進部会員 ○学科推薦 ○行動型学修企画教員 ○学外研修参加教員
期待	AL推進者としてのFDer【現在49名(最終目標:30名)】
課題	○ALの知識, 授業スキルは十分か? ○組織的教育改善の意欲? ○FDerばかりが負担増?

4. 成果と課題

- 成果**
- ピアレビューや高校授業見学を通じた、授業改善意識の向上
 - FDer間の対話を通じた「支え合い・学び合い」の雰囲気醸成

- 課題**
- 他者の授業を見る目, コメント力の向上
 - ルーブリックの運用本格化 ⇒ FDer/Alerとしての成長を可視化

【1】ルーブリックによる自己評価

◆ FDer/Alerとしての到達度を示した「自己評価ルーブリック」を作成

FDer自己評価ルーブリック(案)

	A. 実践力	B. 応用力	C. 基礎力
1. 組織的教育改善	カリキュラム・ポリシー(編成方針, 教育・評価方法)をアクティブ・ラーニング(AL)の観点から点検し, カリキュラム上の課題の指摘と, 改善のための提言ができる。 □1点達成(6点) □半分程度達成(5点)	大学入学以前に培った「学力の3要素」をさらに発展・向上させ, 学生を社会に送り出すために必要なこと等を説明できる。 □1点達成(4点) □半分程度達成(3点)	「学力の3要素」とは何か説明できる。 □1点達成(2点) □半分程度達成(1点)
2. AL実践と普及	ALの授業を公開するとともに, 他者の授業を参観し, 助言することができる。 □1点達成(6点) □半分程度達成(5点)	ALの手法を用いて授業を行い, その振り返りにより授業改善を図ることができる。 □1点達成(4点) □半分程度達成(3点)	ALとは何か説明できる。 □1点達成(2点) □半分程度達成(1点)
3. 学修成果の把握	アクティブ・ラーナーとしての到達度をはかるルーブリックを作成・活用し, 学生の伸びを可視化することができる。 □1点達成(6点) □半分程度達成(5点)	ルーブリックの活用法を理解し, 作成することができる。 □1点達成(4点) □半分程度達成(3点)	ルーブリックとは何か説明できる。 □1点達成(2点) □半分程度達成(1点)
4. 学修支援アドバイザーとの協働	学修支援アドバイザーと協働し, アクティブ・ラーナーを育てる授業をすることができる。 □1点達成(6点) □半分程度達成(5点)	学修支援アドバイザーの役割を理解し, その活動の具体例を示すことができる。 □1点達成(4点) □半分程度達成(3点)	学生による学修支援の意義が説明できる。 □1点達成(2点) □半分程度達成(1点)

Aler自己評価ルーブリック(案)

	A. 実践力	B. 応用力	C. 基礎力
【知識・技能】	大学での学修方法を修得し, さらに学びを深めるために質問を発することができる。 □1点達成(6点) □半分程度達成(5点)	授業外学修の進め方を理解し, 実践できる。 □1点達成(4点) □半分程度達成(3点)	基本的な学修方法や, 情報収集の方法を知っている。 □1点達成(2点) □半分程度達成(1点)
1. 学修・方略	修得した知識や技能を, 他人に教えたり, 問題解決に役立てたりすることができる。 □1点達成(6点) □半分程度達成(5点)	修得した知識や技能を応用し, より深く学ぶことができる。 □1点達成(4点) □半分程度達成(3点)	大学における幅広い学びを通じ, 基礎的な知識と技能を身につけている。 □1点達成(2点) □半分程度達成(1点)
【思考力・判断力・表現力】	自ら組み立てた明確な意見を持ち, それを相手に的確に伝えることができる。 □1点達成(6点) □半分程度達成(5点)	ものごとを多面的に捉え, 柔軟に思考した上で, 自らの考えを組み立てることができる。 □1点達成(4点) □半分程度達成(3点)	同じことに対して異なる理解や解釈が存在することを理解し, ものごとを多面的に考えることができる。 □1点達成(2点) □半分程度達成(1点)
2. 知識・応用	自ら組み立てた明確な意見を持ち, それを相手に的確に伝えることができる。 □1点達成(6点) □半分程度達成(5点)	課題解決へ向けて, 論理的・創造的に熟考することができる。 □1点達成(4点) □半分程度達成(3点)	困難に直面したときに, 解決すべき課題に気づくことができる。 □1点達成(2点) □半分程度達成(1点)
【思考力・判断力・表現力】	熟考して得られた課題解決方法を, 的確な方法で実行できる。 □1点達成(6点) □半分程度達成(5点)	課題解決を進めるために対話することができる。 □1点達成(4点) □半分程度達成(3点)	向上心をもって学ぶことができる。 □1点達成(2点) □半分程度達成(1点)
3. 意見・表明	社会的諸問題に関心を持ち, 主体的に学び続ける心構えができていく。 □1点達成(6点) □半分程度達成(5点)	自律して学修する意欲を持ち, 日々の学修で実践できる。 □1点達成(4点) □半分程度達成(3点)	大学生活において, 同じ時間や場所を共有する相手を思いやることができる。 □1点達成(2点) □半分程度達成(1点)
【思考力・判断力・表現力】	相手を尊重し, 目標の達成に向けて協働することができる。 □1点達成(6点) □半分程度達成(5点)	相互理解を進めるために対話することができる。 □1点達成(4点) □半分程度達成(3点)	
4. 課題・解決			
【主体性・協働性】			
5. 自律・意欲			
【主体性・協働性】			
6. 共感・協働			

【2】授業ピアレビュー促進

学部・学科	授業実施日時	授業者氏名	参観者氏名
学 部 学 科	平成 29 年 月 日 () 第 講		
授業 名			

観点	具体例	評価	気付き
準備	授業を受ける場面が整っている。	3点-4	
対応	授業における疑問や課題に対し、積極的に対応している。	3点-4	
思考・表現	授業中の質疑に自分の考えを述べている。	3点-4	
意欲	授業の振り返りに授業参観の比較が記されている。	3点-4	
協働	多角的な学びで新たな発見をしている。	3点-4	
社会性	本学での授業参観を考えた活動がある。	3点-4	

※ 観点には「学力力」も可。① 準備・理解 ② 民間的表現 ③ 態度・志向 ④ 総合的学習経験等

- ◆ 31名のFDerが60授業を公開
- ◆ FDer延べ47人が授業を参観(いずれも前期成果)

※ピアレビューの流れ

- ① 授業参観シート中の各観点に基づき, 授業を参観。
- ② 参観結果を授業者へフィードバックし, 授業改善について意見交換。

【3】実践の積極的な発信(ポスターセッション)

- ◆ 平成29年度第3回FDer養成講座(H29.9.14)
- ◆ 39名のFDerが計42件の授業実践事例等を発表



FDerの
成長

Alerの育成へ!!